大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

生野に残る古代朝鮮の残照

～百済（くだら）駅跡から今はなき百済商店街をたずねて～

百済地区では、古代より朝鮮半島から渡来人を積極的に受け入れ、技術や文化を吸収してきました。朝鮮半島で百済国が滅亡した時（660年）には、多数の亡命者が来日し、百済王一族もやって来ています。そのゆかりで現在でも「百済」の地名がまだ残っている所がありますが、そうした古代朝鮮文化の痕跡を訪ね歩いてみましょう。

① 百済駅

昭和38年（1963）開業の日本最大級の貨物駅です。開業当時は大阪市中央卸売市場東部市場への貨物線もありましたが現在は廃止されています。東住吉区を流れる今川・駒川流域、および生野区西部を流れる平野川（＝古名・百済川）流域一帯は、ほぼ古代の百済野、百済郡の場所と一致すると考えられています。明治22年（1889）～大正14年（1925）の間は、JR百済駅を含む一帯（今林・杭全・今川・桑津辺り）は「北百済村」と呼ばれ、中野・針中野・湯里・鷹合辺りは「南百済村」と呼ばれていました。また明治42年（1909）から昭和20年（1945）頃までは、現在の東部市場前駅（1989年開業）辺りに、旧国鉄の旅客駅「百済駅」も存在していました。

② 奥村橋

大阪と奈良とを結ぶ「亀の瀬越え奈良街道」（国道25号線にほぼ沿って走る旧街道）が駒川を渡る地点に架けられています。嘉永6年（1853）11月、平野郷今在家村（現・今川町）の奥村林右衛門が八十八歳米寿（ますかけ）の内祝いに、私財五百円をもって石橋を寄付したところ、お上より「奇特なこと」と認められ、橋名に奥村と入れることを許可されました。

③ 成恩寺（東福寺大阪別院）

臨済宗東福寺派の準別格寺院です。弘安2年（1279）、関白一条実経が山崎（京都府乙訓郡大山崎）に創建しましたが、明治時代に梅田墓地に移り、その後、梅田付近の発展に伴い、林寺の地に移転してきました。石造の釈迦涅槃像は江戸時代の秀作です。その覆い屋の内側に、彫刻・書道・日本画の三作家の合同作品が飾られています。境内には相撲力士の墓があり、初代～三代までの三保ヶ関の墓もあり、毎年3月の大阪場所では三保ヶ関部屋から分かれた北の湖部屋が宿舎として利用しています。

④ 生野八坂神社

創建は文禄二巳年（1593）、または元禄二巳年（1689）で、林寺村の氏神で、スサノオ（牛頭天王）を祀ります。枝郷・林寺新家村には、スサノオの妻・クシナダヒメを祀る林神社がありました。一説によれば、「林寺」の地名は渡来系氏族である林史（はやしのふひと）の氏寺のあった地ともいわれています。明治41年（1908）に天王寺区の河堀稲生神社に合祀され、境内地も「河堀稲生神社御旅所（おたびしょ）」となりましたが、氏子有志の尽力によって復興造営が完成し、昭和30年（1955）、御神霊の還御を仰いで生野八坂神社となり、生野の祇園さまとして今日に至っています。境内の「歓喜殿」には男女のシンボルが祀られています。

⑤ 桑津街道

天王寺区の細工谷を基点とし、「木野」（桃谷）「岡」（勝山北）「舎利寺」「林寺」などの村々を経て東住吉区の桑津にいたる街道です。仁徳天皇の妃・髪長媛（かみながひめ）が桑津に住まわれていて、天皇が高津宮から媛のもとにしばしば行幸された道筋ともいわれています。徳川家康の側室警護を命じられた佐野綱正を主人公にした、司馬遼太郎の『嬖女（めかけ）守り』という短編中に「やがて綱正の一行は舎利寺村・林寺村に出、いよいよ南下して奈良街道に出た」という文章でこの街道が登場します。

⑥ 生野神社

木瓜（もっこう）を神紋とする生野神社の古名は、牛頭（ごず）天王宮という神号を用いていました。明治5年（1872）には村社、明治42年（1909）には素盞嗚尊（すさのおのみこと）神社を経て、昭和22年（1947）に生野神社と改称しました。神社の鳥居には宝永7年（1710）の刻銘があり、区内では最も古いものです。また拝殿前の一対の狛犬は天保4年（1833）のもので、お伊勢参りが大流行した江戸期のものです。

⑦ 舎利尊勝寺

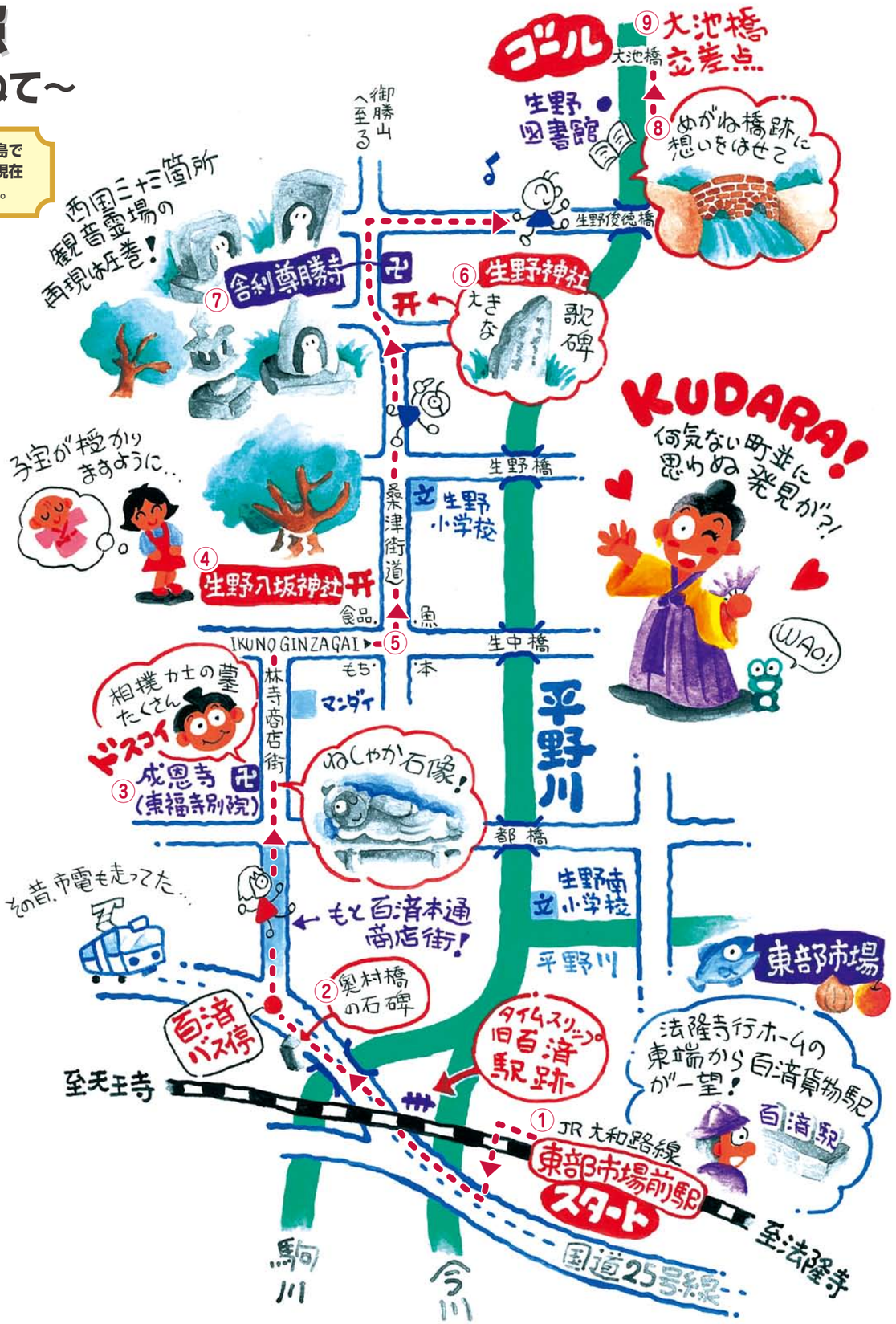
黄檗（おうばく）宗に属し、通称は舎利寺、正式には南岳山舎利尊勝寺と呼ばれる禅宗の寺院です。約1400年前の用明天皇のころ、このあたりの富豪生野長者の子は口がきけなかったので、聖徳太子におすがりしたところ、太子は子どもの口から仏舎利3つを吐かせ、話せるようにしたといわれています。3つの仏舎利は、法隆寺、四天王寺と生野長者に分けて授けられました。長者は屋敷内にお堂を建立、その仏舎利を奉祀したのが当寺の起源と言われています。かつて境内に善光堂があり、これは百済王善光を祀る廟であったとされ、当寺を百済王氏の氏寺である「百済寺」に比定する説がありました。

⑧ 鶴橋洗堰（めがね橋跡）

鶴橋洗堰（めがね橋）は大正12年（1923）、新平野川が開削された時に旧平野川から分岐する新平野川に落とし込む水の量を調節するために設けられた堰です。またこの堰は、旧平野川の堤防（平野街道）の一部を切り取った位置に設置されたもので、堰の上は通行できるようになっており、街道の一部として橋の役割をも兼ねていました。橋の下は水門で、メガネのような二つの円いアーチになっていたので、一般にめがね橋と呼ばれていました。旧平野川（ここより下流部分）が不要になって埋め立てられた昭和15年（1940）まで存在しました。

⑨ 大池橋

現在は勝山通りに架かっていますが、もとはその辺りの細道に架かっていました。当初の勝山通りは御勝山の東端止まりで、勝山通りとその細道とは一本につながってはいませんでした。勝山通りが大池橋交差点まで現在のような広い道幅で開通したのは昭和9年（1934）頃のことです。なお、この橋のすぐ東側の「大池橋交差点」は、勝山通りと今里筋とが交差する場所で、生野区のほぼ中心にあたります。かつてはこの付近で大阪市営トロリーバスも運行されていました。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。